

図画工作科学学習指導案

三次市立甲奴小学校 教諭 石井 正記

1 日 時 平成 24 年 6 月 12 日 (火) 第 5 校時 14:05～14:50

2 学 年 第 3 学年 14 名

3 場 所 3 年生教室

4 題材名 手でみて かこう ～箱の中のふしぎな世界～ 【領域】「かく」「みる」

5 題材について

①題材観

本題材は、学習指導要領に示された次の目標と指導内容を受けて設定した。

	第 3 学年及び第 4 学年の目標	第 3 学年及び第 4 学年の指導内容
A 表現	(2)材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。	(2)ア 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。 (2)ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。
B 鑑賞	(3)身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。	(1)ア 自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。 (1)イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。
共通事項	ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。 イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	

本題材は、中の見えない箱（ブラックボックス）に手を入れて、中に入れてあるものに触わり、そこから感じたことを絵で表すというものである。

ブラックボックスに手を入れるとき、児童は大いにわくわくすることだろう。また、触感を基に想像を広げて絵に表す活動は、自分ならではの発想を生かして、形や色などを自由に工夫することができ、児童は表現の喜びを十分に味わうことができるだろう。

出来上がった作品は、児童一人一人によってかなりの違いが見られるはずである。鑑賞をするときには、それぞれの作品の類似点や相違点を考えることにより、作品のよさや面白さをより具体的に感じ取ることができるだろう。

このように本題材は、「感じる力」「考える力」「かく・みる力」をバランスよく育てることができるものである。

本題材で児童に「付けたい力」は次の通りである。

- ・触って感じたことから想像を広げて、箱の中の世界を絵に表す活動を楽しもうとする態度

【感じる力】

- ・自分が想像した箱の中の世界を表すために、形や色、組合せなどを考える力

【考える力】

- ・表したいことに合わせて、クレヨンやコンテパステルなどの描画材の特徴を生かしながら、表し方を工夫する力

【かく力】

- ・感じたことを話したり、友人と話し合ったりして、自分や友人の作品のよさや面白さを感じ取る力

【みる力】

②児童の実態

本学級の児童は、絵に表す活動について次のような意識を持っている。

設 問 (回答者数 14 名)	回答数
ア ヘんな形に、自分でつくわえをして、何かに見立ててかくことが好き	13
イ 音を聞いて、絵で表すにはどうすればよいか、自分で考えてかくことが好き	10
ウ 自分の思うままに、線をかいたり、色をぬったりすることが好き	8
エ 人や物、風景などをみてかくことが好き	8
オ まんがやアニメの絵をかくことが好き	8
カ 物語を聞いて、場面を想像してかくことが好き	5
キ 生活のことや行事のことなどを思い出してかくことが好き	4
ク 絵をかくのは好きではない	0

このことから本学級の児童の多くは、対象をみながら絵をかくことより、音を聴いて形や色で表したり、不定形を何かに見立てて絵に表したりすることを、好んでいるのがわかる。対象に縛られることなく、自分で自由に形や色を感じたり、考えたりすることは、児童にとって意欲的に取り組むことができるようだ。このことから、本題材は児童の創作意欲を大いに高めるものといえるだろう。

また、次の意識調査の結果についても、指導する上で十分に考慮しておかなくてはならない。

設 問 (回答者数 14 名)	A	B	C	D
ケ 絵をかくとき、先生に助言してほしい。	6	6	2	0
コ 絵をかくとき、友だちの作品をさんこうにする。	3	8	2	0
サ 自分のかいた絵について、友だちに何か言ってもらうことはすき。	7	7	0	0
※ A 当てはまる B どちらかといえば当てはまる C どちらかといえば当てはまらない D 当てはまらない				

具体的には、教師の指導や助言が児童の発想を歪めることがないように、児童の思いに共感的に寄り添っていく姿勢を大切にする。さらに、友人の作品のよさや面白さを感じ取る時間を、様々な活動の段階で十分にとっていく必要がある。

③指導観

指導に当たっては、次のような手立てを講じていきたい。

【感じる力、考える力を育てる手立て】

児童が豊かに想像を広げることができるよう、ブラックボックスの中に入れるものは、つるつるしたものやざらざらしたもの、かたいもの、やわらかいものなど、触感を刺激する様々な材質のものを用意しておく。また、単なる中身当てにならないように、箱の中の世界を想像する意欲が高まる言葉かけを工夫していきたい。「どんなものがみえるか。」「どんな色なのか。」「どんな感じがするか。」「どんなときどきがあるか。」「どんなできごとが起こっているか。」など、児童の様子をよく見て、教師の考えを押し付けることにならないように気を付けながら、言葉かけをしていきたい。

手で感じたことは、ワークシートに、絵や言葉でかいておくようにさせる。ワークシートは、製作段階で参考にしたり、友人と交流したりして、発想を広げる手立てとして、有効に活用していくようにしたい。

【かく力を育てる手立て】

クレヨンやコンテパステル、カラーペンなど、児童が表し方を工夫することができるよう、様々な描画材を準備する。また画用紙についても、大きさや色が違うものをいくつか用意して、児童が自分のイメージに合わせて選ぶことができるようにしたい。

児童が自分の感じたイメージを表すことができているか、ワークシートと作品を比較したり、児童の思いを聞き取ったりして評価し、その上で適切な助言を与えるようにしたい。

【みる力を育てる手立て】

作品製作の段階で、友人の作品をみる機会（ルックルックタイム）を何度も設ける。そのことを通

して、より豊かに発想したり、表現したりすることができるようにさせていきたい。また、作品が出来上がってから行う鑑賞では、形や色、物語性など、鑑賞する視点を与えて、具体的によさや面白さを感じ取らせていきたい。

6 題材の目標

○ブラックボックスの中に入れてあるものを触って感じたことから、箱の中の世界について想像を広げて表したいことを見つけ、形や色を工夫して表すことができる。

7 題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度（感じる力）	イ 発想や構想の能力（考える力）	ウ 創造的な技能（かく力）	エ 鑑賞の能力（みる力）
①触って感じたことから想像を広げて、箱の中の世界を絵に表す活動を楽しもうとする。	①自分が想像した箱の中の世界を表すために、形や色、組合せなどを考えている。	①表したいことに合わせて、クレヨンやコンテパステルなどの描画材の特徴を生かしながら、表し方を工夫している。	①感じたことを話したり、話し合ったりしながら、自分や友人の作品のよさや面白さを感じ取っている。

8 指導と評価の計画（全4時間）

次	学習内容 (時数)	評 価					
		ア	イ	ウ	エ	評価規準	評価方法
一	○ブラックボックスの中にあるものに触って感じたことから、箱の中の世界について想像を広げる。 (1)	◎				・触って感じたことから想像を広げて、箱の中の世界を絵に表す活動を楽しもうとする。	発言 ワークシート
二	○箱の中の世界を想像し、表し方を工夫して絵に表す。 (2) 【本時2／2】		◎		○	・自分が想像した箱の中の世界を表すために、形や色、組み合わせなどを考えている。 ・表したいことに合わせて、クレヨンやコンテパステルなどの描画材の特徴を生かしながら、表し方を工夫している。	作品 発言 行動観察
三	○出来上がった作品を鑑賞する。 (1)				◎	・感じたことを話したり、友人と話し合ったりしながら、自分や友人の作品のよさや面白さを感じ取っている。	作品 発言 ワークシート

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・箱の中の世界を想像し、表し方を工夫して絵に表すことができる。

(2) 本時の評価規準

◎自分が想像した箱の中の世界を表すために、形や色、組合せなどを考えている。

【発想や構想の能力】

○表したいことに合わせて、クレヨンやコンテパステルなどの描画材の特徴を生かしながら、表し方を工夫している。

【創造的な技能】

(3) 準備物

〔指導者〕

・ブラックボックス、コンテパステル、カラーペン

〔児童〕

・クレヨン、色鉛筆、絵の具道具、アートフォリオ（第1次でかいたワークシートを貼ったもの）

(4) 学習展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法） ☆支援を要する児童への手立て
1 本時の課題を確認する。	形や色を工夫して、箱の中の世界を、手でみてかこう。	
2 ブラックボックスに手を入れて、中に入れてあるものに触わり、箱の中の世界を想像する。 ・ふわふわしたものがあるよ。雲かな。 ・すごく長いものがあるよ。へビかもしれない。 ・ぶによぶによして、クラゲみたいだ。色は水色かな。 ・クラゲがへビに追っかけられているみたい。	・単なる中身当てにならないよう、箱の中の世界を想像することに意識を向けさせる。 【児童の意欲を高める言葉がけ】 「どんなものがみえるかな。」 「どんな色のものなのかな。」 「どんな感じがしますか。」 「どんなときどきがすることがあるか。」 「どんなできごとが起こっていますか。」	・自分が想像した箱の中の世界を表すために、形や色、組合せなどを考えている。 【発想や構想の能力】 （ワークシート・発言・作品） ☆友人の作品をみて参考にさせる。
3 箱の中の世界を、表し方を工夫して、絵に表す。 ・ふわふわした感じになるように、コンテパステルでかいた後、こすってみたよ。 ・へビは長いので、体をぐねぐね曲げてかいたよ。 ・クラゲは、たくさんいた方がいいな。 ・箱の中の世界は、夕方だと思う。だから、背景はオレンジ色にしよう。	・自分の感じたイメージを表すことができているか、ワークシートと作品を比較したり、児童の思いを聞き取ったりして評価し、その上で適切な助言を与える。 【児童の意欲を高める言葉がけ】 「この雲は、ワークシートに書いているどの言葉から、想像したのかな。」 「体を曲げると、へビの長さがしっかり表せるね。」	・表したいことに合わせて、クレヨンやコンテパステルなどの描画材の特徴を生かしながら、表し方を工夫している。 【創造的な技能】 （作品・行動観察） ☆教師が、別の紙にいろいろな描画材でかいて、効果の違いを捉えさせる。
4 出来上がった作品を鑑賞する。	・形や色、物語性など、鑑賞する際の視点を与えて、具体的によさや面白さを感じ取らせる。	
5 本時の学習をふり返る。	・ふり返りカードに自己評価させる。	